

第26回 福島問題予備研究会 議事録 (ダイジェスト版)

日時：平成29年7月28日(木) 14:30~17:00

場所：林野会館会議室

出席者：(敬称略) 小林、横堀、鈴木、松井、橋本、中尾(記録)

1. 前回議事録確認

特になし。

2. 関連情報提供

1) 化学工学会“福島事故対策委員会”への提言について(小林)

* 今後の学会との対応方針について、意見交換した。

2) NDF 研究連携タスクフォース分科会報告(鈴木)

* 7月18日に開催された「特殊環境下の腐食現象の解明」分科会について報告有り。

この分科会はJAEAの山本主査のもと開催されたもので、参加者は東北大学、QST、電力中研、東電、NDFなどである。廃炉技術関連の6つの重要研究開発課題の1つとして設定された表記の課題につき、テーマ設定を行うことをミッションとしている。

* 中間報告として設定されたテーマは、①放射線環境下での腐食データの取得と、水の放射線分解(ラジオリシス)による腐食影響のDB化、②複雑な流路環境下における配管や構造材料の腐食現象の推定と評価試験法の調査、とし、格納容器や冷却系での腐食劣化がデブリ取り出しにどのように影響するかを検討しようとしている。

また、海水に曝され、あるいは高温の履歴を受けた構造材の劣化、腐食が廃炉期間中にどのように影響するか、についての知見を得ることも関心事である。

3) 第2回福島第一廃炉国際フォーラム参加(横堀)

* 7月2日(広野町)、3日(いわき)と福島県で開催された国際会議で、延1300人が出席。

2日は被災地の地元を対象にし、3日は技術専門家を対象にしたものであった。

広野町では地元の方々の意思疎通を図る目的で、対話の進行状況をビラに書きとどめる形で進めている点に新味があった。また、ロボットや除染機械の展示もあった。

4) 日本技術士会例会の報告(横堀, 7/20)

* 東北電力女川発電所小保内氏より、“東電と東北電力の違い”についての講演を聞いた。

女川では15mの津波に対して、ポンプ位置を嵩上げていたので、危機管理に対する経営者の意識の差として捉える面があるが、“運が良かっただけ”との見解があった。

“20mを超える津波が来ても耐える本質安全設計が必要”との認識が正しい。

6) その他（関連情報）

* Sr 選択制吸着材のニュース（6.28 化工日報）

K & A 環境（化学専門商社）は香川大学（馮 旗 FENG, Qi 教授）と共同で、従来の10倍の選択性を有する吸着材を開発した。粉末酸化マンガン吸着剤は、Na⁺, K⁺, Mg²⁺, Ca²⁺が多く含まれている海水条件における Sr²⁺選択吸着特性を有し、福島第一原子力発電所事故の放射性汚染水処理に最適な Sr²⁺イオンふるいである。

馮 旗 教授の経歴：広西大学卒⇒工業技術院四国工業技術研究所⇒高知大学⇒香川大学

3. 次回日程等

* 次回は9月6日（水）2時30分～